

としょかんだより 2月号

早いもので、もう2月になってしまいました。
厳しい寒さで体調を崩さないように、睡眠や栄養をしっかりと取ってくださいね。
そして、体の栄養と一緒に、心の栄養も本から取ってもらえたらと思います。

季節に合わせて



「はじめての飾り巻きずしとデコちらし」



後藤幸子:著
日本文芸社 59/ゴ
恵方巻は、もともととは関西で行われていた風習のよう
です。現在は、全国に広がり、
楽しんでるみなさんも
多いのではないのでしょうか。
恵方巻の代わりにかわいらしい飾り巻きずしな
どはいかがでしょう。



「どうやってできるの？チョコレート」

ダンテライオン・チョコレート・ジャパン: 監修
ひさかたチャイルド 588/ゴ



2月といえばバレンタイン。バレンタインといえばチョコレート。甘くておいしいチョコレートですが、そのチョコレート、何からどうや

って作るか知っていますか？この本では、それを写真でくわしく教えてくれます。



二月 初午 しもつかれ

栃木と言えばしもつかれですが、みなさんは食べられますか？今回はそのしもつかれの由来を紹介します。

しもつかれは、栃木県を中心に、北関東一帯に伝わる稲荷信仰の煮物料理です。2月の初午※に、赤飯とともに藁で作った器に入れて稲荷明神に供えます。

平安期頃からの料理ともいわれていますが、鎌倉前期の『宇治拾遺物語』の中に、1218年頃にそれらしい料理の記事があるそうです。

しもつかれの語源には諸説あって、味がしみ込んだ又は冷たいことを意味する「しみつかる」や酢をかけて食べたことに由来し『宇治拾遺物語』などにみえる「酢むつかり」

を起源とするや「下野家例」の訛りで「下野ばかり」であるとする説などがあります。家例は、その家に代々伝わる特別なしきたり・慣習のこと。

※初午は、2月最初の午の日で、稲荷の祭日とされています。今年は2月6日。



『聞き書 栃木の食事』農文協 59/二

『なるほど宇都宮 歴史・民俗・人物百科』柏村祐司 随想舎 213/カ



あたら ほん 新しい本



『学研まんが 鳥屋重三郎』



ちさかあや：まんが
Gakken 289/チ

『くさい食べ物 大図鑑』



まえはしけんじ かんしゅう
前橋健二：監修
金の星社 383/マ

『食べて楽しむ 科学実験図鑑』



おじまよしみ ちよ
尾嶋好美：著
SBクリエイティブ
407/オ

『ひとりでよめるずかん とり』



たまやすゆき かんしゅう
瀧靖之：監修
Gakken 488/ガ

『ひとりでよめるずかん さかな』



たまやすゆき かんしゅう
瀧靖之：監修
Gakken 488/ガ

『もののしくみ図鑑』



こみねたつお ちよ
小峯龍男：著
Gakken 500/ガ

『わくわく発見！ 世界の民族衣装』



たけなが えり 画
竹永絵里：画
かわでしよぼん 河出書房新社 786/カ

『ふくはなにから できている？』



さとうてつや ちよ
佐藤哲也：著
福音館書店 586/サ

『目でみる方言』



おかべたかし ぶん
岡部敬史：文
とうきょうしょ 東京書籍 818/オ

『いのちいっぱい』



あいだ ちよ
相田みつを：著
ダイヤモンド社
728/ア

『すき、好き、スキ。』



ינועמי חוכו ちよ
イノウエミホコ：著
ぶんけんしゆつぽん 文研出版 913/イ

『げたばこかいぎ』



むらかみ ちよ
村上しいこ：著
PHP研究所
913/ム

『直紀とふしぎな庭』



やました ちよ
山下みゆき：著
せいざんしゃ 静山社 913/ヤ

『けものみちのにわ』



みなづくみこ ちよ
水凧紅美子：著
BL出版 913/フ

『ビター・ステップ』



たかたゆきこ ちよ
高田由紀子：著
ポプラ社 913/タ

『夜行員のひかり』



えんどう ゆみこ ちよ
遠藤由実子：著
ぶんけんしゆつぽん 文研出版 913/エ

『子どものころの 戦争の記憶』



こしかわ えいこ さく
越川英子：作
ずいそうしや 随想舎 E/コ

『ころをなくした かいじゅう』



あらいひろゆき さく
新井洋行：作
パインターナショナル E/ア

『おやすみ、 はたらくくるまち』



シリー・ダスキー・リッカー ぶん
ひさかたチャイルド E/リ

『エルマーとヘビ』



デビット・マッキー 作
BL出版 E/マ